

育児期の子どもをかかえた家庭における 父親の家事・育児分担と母親の就労との関係

サトウ ヒデキ * 1 サトウ シュウイチ スズキ ユキオ * 3
佐藤 秀紀 * 1 佐藤 秀一 * 2 鈴木 幸雄 * 3

I はじめに

わが国の少子化傾向は、戦後社会の大きな変化の1つであり、1人の女性が生涯に生む子どもの数を示す合計特殊出生率は、1.43と、統計をとりはじめた明治23年以降最低となっている¹⁾。この出生率低下の背景は多様であり、単一の要因に帰することはできないが、女性の職場進出に伴い、家事や育児と両立していくことが困難な状況であることがその要因の一つと考えられている²⁾。この家事や子育ての分担をいかに対処するかによって、女性の生活の充実感がまったく異なったものになることから、育児不安を軽減^{3)~5)}し、女性がゆとりを持って楽しく子育てをできる社会環境をつくりあげることが、緊急かつ重要な課題となっている^{6)~8)}。また、家庭を見直す機運が高まってきていることから、父親の役割の重要性が強調されている。そうした状況を反映して、育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家事・育児参加や役割のあり方が問われている⁹⁾。

従来の研究によれば、家事・育児分担についての検討が数多くなされている^{10)~14)}。ところが、育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家事・育児分担および夫に対する評価に関連する要因を、母親の就労の有無との関係で検討している研究はあまり見当たらない。

そこで本研究では、今後の子育て支援の方策に対する指針を得ることをねらいとして、育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家

事・育児分担および夫に対する評価に着目し、母親の就労の有無との関連性を検討することを目的とした。

II 方法

調査の対象は、北海道内において、合計特殊出生率の低い地域のS市（合計特殊出生率：1.32）、合計特殊出生率の高い地域のH町（2.09）、その中間にあたる地域のO市（1.54）を選定し、その地域の保育園および幼稚園に通園している子どもの母親625人とした。

調査方法は、調査票を作成し、各保育所および幼稚園の担当者を通じ、個別に配布・回収を行った。

調査内容は、子ども数、世帯タイプ、世帯の収入、母親の年齢、母親の教育歴、母親の就労の有無、父親の年齢、父親の雇用形態、父親の職業、父親の家事・育児分担、夫に対する評価とした。これら調査内容のうち、父親の家事・育児分担の項目および夫に対する評価の項目に関しては、先行研究¹⁵⁾を参考に独自に作成した。

父親の家事・育児分担は、休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする（勉強をみる）、子育てに関することで夫婦で話し合う、あなたの悩みやグチを聞いてくれる、保育園・幼稚園に子どもを送って行く（迎えにいく）、あなたの外出中に子どもの世話をする、子どもと一緒に風呂に入る、子どもの着替えを手伝う（おむつを替える）、子どもと一緒に夕食をとる（食事を食べさ

* 1 青森県立保健大学理学療法学科教授 * 2 同講師 * 3 北海道医療大学医療福祉学科助教授

せる),子どもを寝かしつける,子どもが病気のときに仕事を休んで看病する,休日に家族を連れて出かける,食品の買い物と一緒にいく,食事をつくる,食器を洗う,お風呂の掃除や準備をする,ゴミ捨てをする,部屋の掃除をする,洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ),アイロンがけをする,保育園・幼稚園のお便りを書く,保育園・幼稚園の行事に参加する,子どもの疑問や話しかけにきちんと答える,子どもがいけないことをしたときには叱る,写真をとるなどの子どもの成長記録をつける,子どもを病院に連れていくの25項目とした。

夫に対する評価は,夫にもっと家事を協力してほしい,夫にもっと育児に参加してほしい,夫は子どもにきびしすぎる,夫は子どもにあますぎる,夫に子どもとずっと遊んでほしい,夫は子どもにかまひすぎる,夫は子どもに無関心すぎる,子どものことについてもっと相談にのってほしい,夫は頼りにならない,夫には何を話してもムダだ,夫は仕事第一主義である,夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている,夫は家族よりも趣味に没頭している,夫は家族よりも友人関係を大切にする,夫は何かと実家に頼りすぎる,「男は仕事,女は家庭」という考え方をもっている,夫は子育ては夫婦の責任だと思っている,夫は疲れているの18項目とした。

解析に当たり,まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。次に,父親の家事・育児分担25項目および夫に対する評価18項目に着目し,母親の就労の有無との関連性を χ^2 検定で検討した。ただし,実測値が10以下の項目についてはYatesの修正を行った。

なお,S市228人,H町124人,O市273人の調査対象者625人のうち,回収ができた538人(回収率86.1%)の中から,すべての項目に回答されている者で,「母+子」「母+子+祖父母」「その他」の家族形態を除く390人の資料を分析した。

Ⅲ 結 果

(1) 基本属性等の調査項目の分布

子どもの数については,平均2.12人,標準偏差0.76となっていた。

第1子の有無は,「有り」が390人(100.0%),「無し」が0人(0.0%)であった。第2子の有無は,「有り」319人(81.8%),「無し」71人(18.2%)であった。第3子の有無は,「有り」101人(25.9%),「無し」289人(74.1%)であった。第4子の有無は,「有り」14人(3.6%),「無し」376人(96.4%)であった。第5子の有無は,「有り」5人(1.3%),「無し」385人(98.7%)であった。

世帯タイプは,「父母+子」が307人(78.7%),「父母+子+祖父母」83人(21.3%)であった。

世帯の収入は,「200万円未満」が8人(2.1%),「200～300万円未満」32人(8.2%),「300～500万円未満」137人(35.1%),「500～700万円未満」113人(29.0%),「700～1000万円未満」81人(20.8%),「1000万円以上」19人(4.9%)であった。

母親の年齢は,「25歳未満」が3人(0.8%),「25～30歳未満」58人(14.9%),「30～35歳未満」144人(36.9%),「35～40歳未満」145人(37.2%),「40歳以上」40人(10.3%)であった。

母親の教育歴は,「中学校卒業」が15人(3.8%),「高等学校卒業」173人(44.4%),「専門学校卒業」82人(21.0%),「短期大学卒業」80人(20.5%),「四年制大学卒業」38人(9.7%),「大学院卒業」2人(0.5%)であった。

母親の就労の有無は,「有り」が223人(57.2%),「無し」が167人(42.8%)であった。

父親の年齢は,「25歳未満」が4人(1.0%),「25～30歳未満」31人(7.9%),「30～35歳未満」102人(26.2%),「35～40歳未満」155人(39.7%),「40歳以上」98人(25.1%)であった。

父親の雇用形態は,「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」209人(53.6%),「公務・団体の正職員(常勤雇用)」98人(25.1%),「臨時雇

用(季節雇用も含む)」18人(4.6%)、「その他」65人(16.7%)であった。

父親の職業は、「事務(一般事務など)」40人(10.3%)、「店員(スーパー・商店の店員など)」6人(1.5%)、「営業・セールス(保険・自動車などのセールス)」46人(11.8%)、「農・林・水産業」20人(5.1%)、「運輸・通信(職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者)」42人(10.8%)、「製造・建設業(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)」77人(19.7%)、「工員・作業員」18人(4.6%)、「理容・美容などのサービス業」3人(0.8%)、「飲食店などのサービス業」10人(2.6%)、「専門職・技術的職業(医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など)」77人(19.7%)、「管理的職業」17人(4.4%)、「その他」34人(8.7%)となっていた。

夫の家事・育児分担についての分布状況は表1に示した通りである。「いつもしている」と回答した者の頻度に着目するなら最も高かったのは、子どもがいけないことをしたときには叱る(72.1%)であり、以下、子どもの疑問や話しかけにきちんと答える(56.7%)、休日に家族を連れて出かける(44.1%)、子どもと一緒に風呂に入る(43.0%)、休日や帰宅後に子どもの遊び

相手をする(勉強をみる)(41.5%)、あなたの外出中に子どもの世話をする(40.6%)、子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)(36.9%)、食品の買い物と一緒にいく(31.3%)、子育てに関することで夫婦で話し合う(29.7%)、保育園・幼稚園の行事に参加する(29.5%)、あなたの悩みやグチを聞いてくれる(29.0%)、写真をとるなどの子どもの成長記録をつける(24.1%)、子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)(21.0%)、ゴミ捨てをする(20.3%)、保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えにいく)(14.9%)、子どもを寝かしつける(14.1%)、お風呂の掃除や準備をする(9.7%)、子どもを病院へ連れていく(9.7%)、食器を洗う(7.4%)、洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)(5.9%)、食事をつくる(4.9%)、部屋の掃除をする(3.6%)、子どもが病気のときに仕事を休んで看病する(3.1%)、アイロンがけをする(1.5%)、保育園・幼稚園のお便りを書く(1.3%)の順となっていた。

夫に対する評価についての分布状況は表2に示した通りである。「そう思う」と回答した者の頻度に着目するなら最も高かったのは、夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている

表1 父親の家事・育児分担の分布

(単位 人、()内%)

項 目	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしない
休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)	162 (41.5)	166 (42.6)	54 (13.8)	8 (2.1)
子育てに関することで夫婦で話し合う	116 (29.7)	196 (50.3)	59 (15.1)	19 (4.9)
あなたの悩みやグチを聞いてくれる	113 (29.0)	165 (42.3)	89 (22.8)	23 (5.9)
保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えにいく)	58 (14.9)	167 (42.8)	89 (22.8)	76 (19.5)
あなたの外出中に子どもの世話をする	158 (40.6)	155 (39.7)	55 (14.1)	22 (5.6)
子どもと一緒に風呂に入る	168 (43.0)	164 (42.1)	44 (11.3)	14 (3.6)
子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)	82 (21.0)	163 (41.8)	92 (23.6)	53 (13.6)
子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)	144 (36.9)	139 (35.7)	87 (22.3)	20 (5.1)
子どもを寝かしつける	55 (14.1)	132 (33.9)	123 (31.5)	80 (20.5)
子どもが病気のときに仕事を休んで看病する	12 (3.1)	53 (13.6)	89 (22.8)	236 (60.5)
休日に家族を連れて出かける	172 (44.1)	161 (41.2)	47 (12.1)	10 (2.6)
食品の買い物を一緒にいく	122 (31.3)	180 (46.1)	55 (14.1)	33 (8.5)
食器を洗う	19 (4.9)	106 (27.2)	105 (26.9)	160 (41.0)
風呂の掃除や準備をする	29 (7.4)	97 (24.9)	101 (25.9)	163 (41.8)
ゴミ捨てをする	38 (9.7)	132 (33.9)	92 (23.6)	128 (32.8)
部屋の掃除をする	70 (20.3)	88 (22.6)	80 (20.5)	143 (36.6)
洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)	14 (3.6)	98 (25.1)	114 (29.2)	164 (42.1)
アイロンがけをする	23 (5.9)	61 (15.7)	75 (19.2)	231 (59.2)
保育園・幼稚園のお便りを書く	6 (1.5)	20 (5.1)	36 (9.2)	328 (84.2)
保育園・幼稚園の行事に参加する	5 (1.3)	25 (6.4)	37 (9.5)	323 (82.8)
子どもの疑問や話しかけにきちんと答える	115 (29.5)	189 (48.4)	56 (14.4)	30 (7.7)
子どもがいけないことをしたときには叱る	221 (56.7)	121 (31.0)	43 (11.0)	5 (1.3)
写真をとるなどの子どもの成長記録をつける	281 (72.1)	92 (23.6)	13 (3.3)	4 (1.0)
子どもを病院へ連れていく	94 (24.1)	133 (34.1)	92 (23.6)	71 (18.2)
	38 (9.7)	143 (36.7)	107 (27.4)	102 (26.2)

(74.4%)であり、以下、夫は子育ては夫婦の責任だと思っている(70.5%)、夫は疲れている(66.9%)、夫に子どもともっと遊んでほしい(56.7%)、夫にもっと育児に参加してほしい(55.9%)、夫にもっと家事を協力してほしい(44.1%)、「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている(34.1%)、子どものことについてもっと相談にのってほしい(29.7%)、夫は仕事第一主義である(28.7%)、夫は子どもにあますぎる(25.9%)、夫は家庭よりも趣味に没頭して

いる(15.9%)、夫は子どもにきびしすぎる(15.6%)、夫は頼りにならない(13.1%)、夫は何かと実家に頼りすぎる(12.6%)、夫には何を話してもムダだ(10.5%)、夫は子どもに無関心すぎる(9.5%)、夫は家庭よりも友人関係を大切にする(8.5%)、夫は子どもにかまひすぎる(5.6%)の順となっていた。

(2) 父親の家事・育児分担と母親の就労の有無との関連性

父親の家事・育児分担25項目と母親の就労の有無との関連性は表3に示した。母親の就労の有無との関連性が認められた項目は、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」「子育てに関することで夫婦で話し合う」「保育園・幼稚園に子どもを送っていく(迎えにいく)」「休日に家族を連れて出かける」「食事をつくる」「食器を洗う」「部屋の掃除をする」「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」「アイロンがけをする」「保育園・幼稚園のお便りを書く」「写真をとるなどの子どもの成長記録を

表2 夫に対する家事・育児への評価

(単位 人, ()内%)

項 目	そう思う	そう思わない
夫にもっと家事を協力してほしい	172 (44.1)	218 (55.9)
夫にもっと育児に参加してほしい	218 (55.9)	172 (44.1)
夫は子どもにきびしすぎる	61 (15.6)	329 (84.4)
夫は子どもにあますぎる	101 (25.9)	289 (74.1)
夫に子どもともっと遊んでほしい	221 (56.7)	169 (43.3)
夫は子どもにかまひすぎる	22 (5.6)	368 (94.4)
夫は子どもに無関心すぎる	37 (9.5)	353 (90.5)
子どものことについてもっと相談にのってほしい	116 (29.7)	274 (70.3)
夫は頼りにならない	51 (13.1)	339 (86.9)
夫には何を話してもムダだ	41 (10.5)	349 (89.5)
夫は仕事第一主義である	112 (28.7)	278 (71.3)
夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている	290 (74.4)	100 (25.6)
夫は家族よりも趣味に没頭している	62 (15.9)	328 (84.1)
夫は家族よりも友人関係を大切にする	33 (8.5)	357 (91.5)
夫は何かと実家に頼りすぎる	49 (12.6)	341 (87.4)
「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている	133 (34.1)	257 (65.9)
夫は子育ては夫婦の責任だと思っている	275 (70.5)	115 (29.5)
夫は疲れている	261 (66.9)	129 (33.1)

表3 父親の家事・育児分担と母親の就労の有無との関連性

(単位 人, ()内%)

項 目	就労している				就労していない				χ ² 値
	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしない	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしない	
休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)	79(35.4)	104(46.6)	36(16.1)	4(1.8)	83(49.7)	62(37.1)	18(10.8)	4(2.4)	8.867*
子育てに関することで夫婦で話し合う	54(24.2)	116(52.0)	41(18.4)	12(5.4)	62(37.1)	80(47.9)	18(10.8)	7(4.2)	9.603*
あなたの悩みやグチを聞いてくれる	60(26.9)	94(42.2)	56(25.1)	13(5.8)	53(31.7)	71(42.6)	33(19.8)	10(6.0)	1.976
保育園・幼稚園に子どもを送っていく(迎えにいく)	46(20.6)	98(43.9)	36(16.1)	43(19.3)	12(7.2)	69(41.3)	53(31.7)	33(19.8)	21.941**
あなたの外出中に子どもの世話をする	95(42.6)	83(37.2)	32(14.3)	13(5.8)	63(37.7)	72(43.1)	23(13.8)	9(5.4)	1.450
子どもと一緒に風呂に入る	96(43.0)	93(41.7)	27(12.1)	7(3.1)	72(43.1)	71(42.5)	17(10.2)	7(4.2)	0.624
子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)	50(22.4)	96(43.0)	47(21.1)	30(13.5)	32(19.2)	67(40.1)	45(26.9)	23(13.8)	2.081
子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)	83(37.2)	81(36.3)	51(22.9)	8(3.6)	61(36.5)	58(34.7)	36(21.6)	12(7.2)	2.565
子どもを寝かしつける	30(13.5)	75(33.6)	77(34.5)	41(18.4)	25(15.0)	57(34.1)	46(27.5)	39(23.4)	2.789
子どもが病気のときに仕事を休んで看病する	10(4.5)	35(15.7)	54(24.2)	124(55.6)	2(1.2)	18(10.8)	35(21.0)	112(67.1)	7.568
休日に家族を連れて出かける	86(38.6)	101(45.3)	28(12.6)	8(3.6)	86(51.5)	60(35.9)	19(11.4)	2(1.2)	7.886*
食品の買い物を一緒にに行く	65(29.1)	98(43.9)	37(16.6)	23(10.3)	57(34.1)	82(49.1)	18(10.8)	10(6.0)	5.708
食事をつくる	16(7.2)	71(31.8)	59(26.5)	77(34.5)	3(1.8)	35(21.0)	46(27.5)	83(49.7)	15.229**
食器を洗う	22(9.9)	64(28.7)	51(22.9)	86(38.6)	7(4.2)	33(19.8)	50(29.9)	77(46.1)	10.345*
部屋の掃除や準備をする	26(11.7)	78(35.0)	48(21.5)	71(31.8)	12(7.2)	54(32.3)	44(26.3)	57(34.1)	3.253
ゴミ捨てをする	50(22.4)	53(23.8)	46(20.6)	74(33.2)	29(17.4)	35(21.0)	34(20.4)	69(41.3)	3.265
部屋の掃除をする	9(4.0)	68(30.5)	59(26.5)	87(39.0)	5(3.0)	30(18.0)	55(32.9)	77(46.1)	8.767*
洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)	20(9.0)	43(19.3)	40(17.9)	120(53.8)	3(1.8)	18(10.8)	35(21.0)	111(66.5)	15.779**
アイロンがけをする	2(0.9)	16(7.2)	25(11.2)	180(80.7)	4(2.4)	4(2.4)	11(6.6)	148(88.6)	8.569*
保育園・幼稚園のお便りを書く	5(2.2)	18(8.1)	24(10.8)	176(78.9)	0(0.0)	7(4.2)	13(7.8)	147(88.0)	7.835*
保育園・幼稚園の行事に参加する	61(27.4)	102(45.7)	40(17.9)	20(9.0)	54(32.3)	87(52.1)	16(9.6)	10(6.0)	7.346
子どもの疑問や話しかけにきちんと答える	117(52.5)	75(33.6)	28(12.6)	3(1.3)	104(62.3)	46(27.5)	15(9.0)	2(1.3)	3.884
子どもがいけないことをしたときには叱る	158(70.9)	56(25.1)	6(2.7)	3(1.3)	123(73.7)	36(21.6)	7(4.2)	1(0.6)	1.780
写真をとるなどの子どもの成長記録をつける	43(19.3)	73(32.7)	61(27.4)	46(20.6)	51(30.5)	60(35.9)	31(18.6)	25(15.0)	10.113*
子どもを病院へ連れていく	24(10.8)	77(34.5)	55(24.7)	67(30.0)	14(8.4)	66(39.5)	52(31.1)	35(21.0)	5.677

表4 夫に対する家事・育児への評価と母親の就労の有無との関連性

(単位 人, ()内%)

項 目	就労している		就労していない		x ² 値
	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない	
夫にもっと家事を協力してほしい	110 (49.3)	113 (50.7)	62 (37.1)	105 (62.9)	5.767*
夫にもっと育児に参加してほしい	130 (58.3)	93 (41.7)	88 (52.7)	79 (47.3)	1.215
夫は子どもにきびしすぎる	44 (19.7)	179 (80.3)	17 (10.2)	150 (89.8)	6.602*
夫は子どもにあますぎる	50 (22.4)	173 (77.6)	51 (30.5)	116 (69.5)	3.279
夫に子どもともっと遊んでほしい	138 (61.9)	85 (38.1)	83 (49.7)	84 (50.3)	5.772*
夫は子どもにかますぎる	13 (5.8)	210 (94.2)	9 (5.4)	158 (94.6)	0.035
夫は子どもに無関心すぎる	23 (10.3)	200 (89.7)	14 (8.4)	153 (91.6)	0.415
子どものことについてもっと相談にのってほしい	68 (30.5)	155 (69.5)	48 (28.7)	119 (71.3)	0.140
夫は頼りにならぬ	27 (12.1)	196 (87.9)	24 (14.4)	143 (85.6)	0.430
夫は何を話してもムダだ	25 (11.2)	198 (88.8)	16 (9.6)	151 (90.4)	0.270
夫は仕事第一主義である	69 (30.9)	154 (69.1)	43 (25.7)	124 (74.3)	1.258
夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている	164 (73.5)	59 (26.5)	126 (75.4)	41 (24.6)	0.182
夫は家族よりも趣味に没頭している	38 (17.5)	184 (82.5)	23 (13.8)	144 (86.2)	0.986
夫は家族よりも友人関係を大切にする	16 (7.2)	207 (92.8)	17 (10.2)	150 (89.8)	1.113
夫は何かと実家に頼りすぎる	30 (13.5)	193 (86.5)	19 (11.4)	148 (88.6)	0.375
「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている	65 (29.1)	158 (70.9)	68 (40.7)	99 (59.3)	5.689*
夫は子育ては夫婦の責任だと思っている	155 (69.5)	68 (30.5)	120 (71.9)	47 (28.1)	0.254
夫は疲れている	153 (68.6)	70 (31.4)	108 (64.7)	59 (35.3)	0.669

つける」の11項目となっていた。「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする（勉強をみる）」「子育てに関することで夫婦で話し合う」「休日に家族を連れて出かける」「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」の4項目は母親が就労していない家庭に、「保育園・幼稚園に子どもを送って行く（迎えにいく）」「食事をつくる」「食器を洗う」「部屋の掃除をする」「洗濯をする（洗濯を干すまたはたたむ）」「アイロンがけをする」「保育園・幼稚園のお便りを書く」の7項目は母親が就労している家庭に多い傾向が示された。

(3) 夫に対する家事・育児への評価と母親の就労の有無との関連性

夫に対する家事・育児への評価18項目と母親の就労の有無との関連性は表4に示した。母親の就労の有無との関連性が認められた項目は、「夫にもっと家事を協力してほしい」「夫は子どもにきびしすぎる」「夫に子どもともっと遊んでほしい」「男は仕事、女は家庭という考え方をもっている」の4項目となっていた。「男は仕事、女は家庭という考え方をもっている」は母親が就労していない家庭に、「夫にもっと家事を協力してほしい」「夫は子どもにきびしすぎる」「夫に子どもともっと遊んでほしい」の3項目は母親が就労している家庭に多い傾向が示された。

IV 考 察

平成7年度における労働省の調査によると、子どものいる世帯のうち母親が就労しているのは53.9%¹⁵⁾となっている。この結果と比較するなら、本研究においては、57.2%となっておりほぼ同様な分布となっていたことから、これら集計対象は本研究の目的にとってはほぼ妥当な集団であったと推定される。

(1) 父親の家事・育児分担に関する項目

本研究で取り上げた25項目の父親の家事・育児分担の実態は、「いつもしている」と回答した40%以上の項目に着目するなら、「子どもがいけないことをしたときには叱る」(72.1%),「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」(56.7%),「休日に家族を連れて出かける」(44.1%),「子どもと一緒に風呂に入る」(43.1%),「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」(41.5%),「あなたの外出中に子どもの世話をする」(40.5%)の6項目となっていた。

これらの項目は、「ときどきしている」という回答を合わせると、いずれも8割から9割という高頻度のものとなっていた。このように、家事・育児分担への頻度の高い行動は、家事とい

うよりも育児に関係する項目となっていた。

逆に「いつもしている」と回答した20%以下の項目に着目するなら、「保育園・幼稚園に子どもを送って行く（迎えにいく）」(14.9%)、「子どもを寝かしつける」(14.1%)、「お風呂の掃除や準備をする」(9.7%)、「子どもを病院へ連れていく」(9.7%)、「食器を洗う」(7.4%)、「洗濯をする（洗濯を干すまたはたたむ）」(5.9%)、「食事をつくる」(4.9%)、「部屋の掃除をする」(3.9%)、「子どもが病気のときに仕事を休んで看病する」(3.1%)、「アイロンがけをする」(1.5%)、「保育園・幼稚園のお便りを書く」(1.3%)の11項目となっていた。

このように日常的で、しかも手のかかる育児となるとかなり参加率の低いものとなっていた。さらに家事の中心的部分での協力は、「食事をつくる」「食器を洗う」「洗濯をする」「部屋の掃除をする」と著しく積極的分担率の少ないものとなっており、母親が衣食住を中心とした主要な家事・育児を一手に引き受けていることが示された。家事・育児における新たな動きとして、「父親の家事・育児参加」の必要性が言われ、父親の家事・育児参加の奮闘振りが新聞紙上に報告されてきてはいるものの、それは少数派にすぎず、依然として家事・育児は母親中心になされている。このことは伝統的な性役割分業意識がいまなお残っていることを表している¹⁷⁾ものと思われる。母親が自らの生き方を求め、生活空間を広げることは、母親の心理的な安定に充足をもたらすことにつながる¹⁸⁾。社会参加による母親の生活の充実を求めるためにも、父親の家事・育児参加が積極的に支持されることが必要と考える。

(2) 夫に対する家事・育児への評価に関する項目

本研究で取り上げた18項目の夫に対する家事・育児への評価の実態は、「そう思う」と回答した者の20%以上の頻度に着目するなら、「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」(74.4%)、「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(70.5%)、「夫は疲れている」(66.9

%)、「夫に子どもとずっと遊んでほしい」(56.7%)、「夫にもっと育児に参加してほしい」(55.8%)、「夫にもっと家事を協力してほしい」(44.1%)、「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている(34.1%)、子どものことについてもっと相談にのってほしい(29.7%)、夫は仕事第一主義である(28.7%)、夫は子どもにあますぎる(25.9%)の10項目となっていた。

逆に10%以下の頻度に着目するなら、「夫は子どもに無関心すぎる」(9.5%)、「夫は家族よりも友人関係を大切にする」(8.5%)、「夫は子どもにかますぎる」(5.6%)の3項目となっていた。

これらの結果からは、「家事・育児への参加意欲の低さ」「母親への心理的な支援の乏しさ」「育児は女性の役割とする意識の強さ」「親子の共同行動の少なさ」といった夫の意識上の問題点が示されている。このような父親への評価は、家事・育児分担の役割期待のみならず、夫婦関係の調和性と、夫婦の家事・育児共同意識、小さい時から培う親子の信頼関係の重要性等を示唆しているものと考ええる。夫婦関係においては、育児期の母親にとって「育児をしている自分の努力を夫が認めてくれている、夫と一緒に育児をしている」という実感が重要である¹⁹⁾とされている。また、母親が父親から心理的な支援援助を受けていると認知するほど、子どもの発達にとって好ましい環境となることが報告²⁰⁾されている。したがって、夫婦がお互いに認め合い、お互いの立場を理解し子育てを協力する²¹⁾ことで、子どもは安心した人間関係のなかで望ましい社会性の発達に積極的な意味をもってくるものと考ええる。父親の子どもに及ぼす影響においては、父親の家事・子育てへの関与が子どもの自発性の発達に影響を与えること²²⁾、子どもの社会的行動は、父親の関わり方や父親との遊びに影響されることが指摘されている²³⁾。また、性役割に関しては、父親が子どもの幼児期により多くの関わりを持つことで、子どもは年齢とともに柔軟性に富んだ性役割行動を取るようになる²⁴⁾とされている。子どもの成長、発達の過程で果たすべき父親の役割は、乳幼児期のみならず、

子どもの年齢に対応した役割行動が重要なものとなると思われる。このように、父親は子どもの社会性の発達に積極的な影響力を持つとする指摘が多いことから、父親が家事・育児に積極的にかかわり、家庭における責任をともに果たしていく必要があるものと考えられる。

(3) 父親の家事・育児分担と母親の就労の有無との関連性の検討

母親の就労の有無との関連性が認められた項目は、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」「子育てに関することで夫婦で話し合う」「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えにいく)」「休日に家族を連れて出かける」「食事をつくる」「食器を洗う」「部屋の掃除をする」「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」「アイロンがけをする」「保育園・幼稚園のお便りを書く」「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」の11項目となっていた。「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」「子育てに関することで夫婦で話し合う」「休日に家族を連れて出かける」「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」の4項目は母親が就労していない家庭に、「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えにいく)」「食事をつくる」「食器を洗う」「部屋の掃除をする」「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」「アイロンがけをする」「保育園・幼稚園のお便りを書く」の7項目は母親が就労している家庭に多い傾向が示された。

母親の就労の有無との関連性においては、家事労働の意識の違いが報告²⁵⁾されている。すなわち、「家事はなるべく簡単にして、自由時間を持つ」ことには、就労している母親の6割が肯定的であるのに対し、就労していない母親の6割が逆に否定的である。また、就労している母親は、就労していない母親に比して平等志向性が強い^{26)~28)}ことが報告されている。ひとつにはこのような母親の意識の違いが反映しているものと思われる。ただし、母親が働くことによって、子どもとの物理的な接触量が少なくなることから、共働きの家庭においては、父親の家庭のなかでの家事・育児の協力が、大きな力とな

っているのは明らかである。このように、母親の就労の有無が父親の家事・育児協力に微妙な影響を及ぼしているものと思われる。共働きの場合には、母親が物理的な接触の少なさを補うだけの質的なかわりを心がけたり、家庭内での父親の理解や協力が大きい²⁹⁾³⁰⁾ものと想定される。

(4) 夫に対する家事・育児への評価と母親の就労の有無との関連性の検討

母親の就労の有無との関連性が認められた項目は、「夫にもっと家事を協力してほしい」「夫は子どもにきびしすぎる」「夫に子どもともっと遊んでほしい」「男は仕事、女は家庭という考え方をもっている」の4項目となっていた。「男は仕事、女は家庭という考え方をもっている」は母親が就労していない家庭に、「夫にもっと家事を協力してほしい」「夫は子どもにきびしすぎる」「夫に子どもともっと遊んでほしい」の3項目は母親が就労している家庭に多い傾向が示された。母親の就労していない家庭の父親は、「男は仕事、女は家事・育児」という伝統的な性役割慣行に基づいた考え方が続いているものが多いものと考えられる。母親の就労している家庭の父親の一部は、子どもに対して厳しいしつけの態度を示すが、このことは、共働き家庭の子育てにおける環境が大きな原因とも考えられる。すなわち、共働き家庭においては、時間的な制限をとまった家事・育児になるために、父親の育児参加やしつけへの関与も必然的に質量ともに高くなるものと思われる。その反面、共働き家庭の父親の一部においては、家事や育児にかかる時間的ゆとりが少ないことから、家事に対する協力や子どもと一緒に遊ぶことが少ないものと思われる。

V ま と め

本研究では、今後の子育て支援の方策に対する指針を得ることをねらいとして、育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家事・育児分担および夫に対する評価に着目し、母親の就

労の有無との関連性を検討した。その結果、1) 父親の家事・育児分担の状況は決して十分ではなく、子育ての負担は母親に過度に集中しており、父親の家事・育児分担は定着したものとなっていない。2) 父親の家事・育児の分担関係には、母親の就労の有無が影響している。3) 父親の役割として、母親への心理的な支援や子どもの社会性の発達への関与を求められている。4) 母親の就労していない家庭の父親は、伝統的な性役割慣行に基づいた考え方が続いていることが明らかにされた。

就労している女性が増加してきている現代社会においては、性別役割分業は適応的なシステムとはいえなくなっている。子育ての原点は家庭にあることから、父親が家事・育児に積極的にかかわり、家庭における責任をともに果たしていく必要があるものとする。今後、さらなる父親の育児参加への啓発が重要であり、各行政機関や職場においては、家事・育児にたずさわる時間をもつための労働時間短縮やフレックスタイム制導入、育児休業法定化、託児所の設置や保育所整備、延長保育等特別保育の実施といったさまざまな対応が期待されよう。

文 献

- 1) 厚生省編。少子化の要因とそれを巡る社会状況。厚生白書。ぎょうせい。1998；18-45。
- 2) 毎日新聞社人口問題調査会編。日本の人口・少産への軌跡。毎日新聞社。1992。
- 3) 牧野カッコ。育児における〈不安〉について。家庭教育研究所紀要。1981；2：41-51。
- 4) 牧野カッコ。乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉。家庭教育研究所紀要。1982；3：43-56。
- 5) 牧野カッコ、中西雪夫。乳幼児をもつ母親の育児不安—父親の生活および意識との関連—。家庭教育研究所紀要。1985；6：11-24。
- 6) 総理府統計局編。社会生活基本調査報告—全国生活時間編（その2）。大蔵省出版局。1986；3-29。
- 7) 日本放送協会放送文化研究所編。1990年度国民生活時間調査。日本放送出版協会。1991；22-45。
- 8) 総理府広報室編。女性の暮らしと仕事。月刊世論調査。大蔵省印刷局。1992；9-20。
- 9) 大日向雅美。母性の研究。川島出版。1988；257-98。
- 10) 堀内かおる、伊藤セツ、天野寛子、他。夫婦の家事責任の共同化をめぐる実態と意識。日本家政学会誌。1992；43：501-7。
- 11) 総務庁青少年対策本部編。夫婦の役割分担。子供と家族に関する国際比較調査報告書。大蔵省印刷局。1996；73-7。
- 12) 中塚綾子、大瀧ミドリ。働く母親の子育ての実態と問題点。小児保健研究。1993；52：573-8。
- 13) 厚生省編。子育て支援総合対策。厚生白書。ぎょうせい。1995；204-13。
- 14) 厚生省編。親子。厚生白書。ぎょうせい。1998；82-107。
- 15) 岩田美香。育児期の母親の心理および生活とソーシャル・ネットワークの活用。北海道大学教育学部修士論文。1994。
- 16) 労働省婦人局編。平成7年度版 働く女性の実情。労働省婦人局。1995。
- 17) 総理府編。男女の家庭生活への参画。男女共同参画白書。大蔵省印刷局。1999；45-51。
- 18) 大日向雅美。子育て中の母親の心理。母性。新曜社。1991；99-116。
- 19) 坂間伊津美、山崎喜比古、川田智恵子。育児ストレスの規定要因に関する研究。日本公衆衛生学雑誌。1999；46：250-61。
- 20) Crockenberg, SB: Infant irritability, mother responsiveness, and social support influences on the security of infant-mother attachment. Child Development, 1981；52：857-65。
- 21) 越良子、坪田雄二。母親の育児不安と父親の育児協力との関連。広島大学教育学部紀要。1991；39：181-5。
- 22) Baumrind, D., Black, E. Socialization practices associated with dimensions of competence in preschool boys and girls. Child Development 1967；38：291-327。
- 23) Pedersen, FA., Robson, KS., Father participation in infancy. American Journal of Orthopsychiatry 1969；39：466-72。
- 24) Williams, E., Radin, N., Allegro, T. Sex role attitudes of adolescents reared primarily by their fathers: An 11 year follow-Up. Merrill-Palmer Quarterly 1992；38：457-76。
- 25) 藤井治枝。日本的経営と新家族主義の形成。日本型企業社会と女性労働。ミネルヴァ書房。1995；128-61。
- 26) Tallichet, SE., Willits, FK., Gender-role attitude change of young women. Influential factors from a panel study. Social Psychology Quarterly 1986；49：19-227。
- 27) Suzuki A., Predictors of women's sex role attitudes across two cultures. United States and Japan. Japanese Psychological Research 1991；33：126-33。
- 28) 鈴木淳子。若年女性の平等主義的性役割と就労との関係について—就労経験および理想の仕事キャリア・昇進パターン—。社会心理学研究。1996；11：149-58。
- 29) 小出眞美。婦人労働者と子育て。婦人労働問題研究。労働旬報社。1986；10-2。
- 30) 神出育司。現代社会における父性の問題。父親と家族。早稲田大学出版部。1998；110-35。